図書館員のひみつの本棚　第１４６回

今月は１０代の子どもたちにぜひ読んでもらいたい物語をご紹介します。

『ピーティ』
ベン・マイケルセン／作　千葉　茂樹／訳　鈴木出版　２０１０年　1620円

＜お勧め年齢＞

乳幼児---　　低学年---　　中学年---　　高学年☆☆　　中学生☆☆☆
高　校☆☆☆　　一　般☆

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

〈本の紹介〉

重い脳性マヒの障がいを持って生まれた男の子、ピーティの人生を描いた物語。

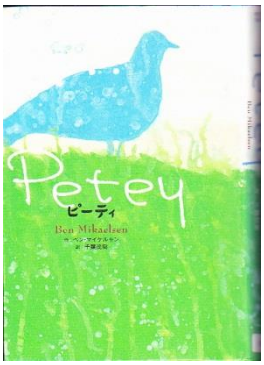
舞台はアメリカ。物語は２部構成となっており、第１部はピーティが生まれた 1920 年代からピーティが 50 代になる 1960 年代頃まで。ピーティの両親は彼を愛していたが、金銭的に育てることが困難になり、ピーティを精神病患者が収容される施設に預ける。この頃、脳性マヒの人には感情も知性もないと思われていた。しかし、手足を動かすことも、寝返りをうつことも、話すことも満足にできないピーティの中には、輝くような好奇心と知性があり、思いやりと感謝の念にあふれた心を持っていた。ほとんどの人がその輝きに気が付かない中、何人かの人々はピーティの素晴らしさに心を惹かれていく。ピーティの知性に最初に気が付いた介護助手のエステバン。ピーティの最初のそして生涯の友達になった同じ収容患者のカルビン・アンダース。20 代のピーティを心から愛した看護師キャシー・グレーバーなど。しかし、様々な理由から、ピーティに心惹かれ、ピーティも心を寄せた人々は、ピーティの側からいなくなってしまう。55 歳になり、ウォームスプリングズの収容所からボーズマンの介護施設へ移される頃には、ピーティはもう誰も好きにならないと心に決めていた。

しかし、それから 13 年後、第２部ではそんなピーティに新しい出会いが訪れる。１０代の少年トレバーが、あるきっかけでピーティの親友となったのだ。

障がいという重いテーマを描きながら、読み終わり本を閉じる時にはすがすがしい気持ちにさせてくれる秀作。

〈子どもに手渡す時のポイント〉

書架に並んでいるだけでは面白さが伝わらない本です。ぜひ、いろいろな機会を見つけて子どもたちに手渡してあげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。